

平成 21 年度 事務事業事後評価調書（平成 20 年度事業）

整理番号 8 - 48

1 事務事業の表示

※ ■ : 該当

事務事業名	勤労者雇用促進事業										
評価者	担当課名		産業振興課		担当係名		商工観光係				
	管理職	職名	課長		作成者	職名	係長				
		氏名	石井弘道			氏名	石山英伸				
事業の概要	冬期間における歩道や公営住宅団地内通路の確保、防雪柵解体作業、町道排雪作業の補助、各保育所及び社会福祉施設、各バス待合室等の除雪を行っている。						全体計画 / 単年度繰返 (平成 20 年度～ 24 年度)				
							事業費	国・道支出金	千円		
								地方債	千円		
								その他	千円		
								一般財源	10,750 千円		
						事業費計	10,750 千円				
実施方法	直営		■ 民間委託		その他 ()						
第 5 期 総合計画 (前期)			■ 登載事業		非登載事業		優先度	A			
事業の位置付け	政策目標	1 はつらつ・雄武～地域産業の振興～									
	基本施策	4 商工業の振興									
	単位施策	4 勤労者の就労環境の向上									
	事務事業の種類	■ 自治事務		法定受託事務							
	その他計画・根拠等	地域雇用開発促進法									
事業費	実施年度	20年度(実績)	21年度(見込)	22年度(計画)	23年度(計画)	24年度(計画)					
	国・道支出金	千円	千円	千円	千円	千円					
	地方債	千円	千円	千円	千円	千円					
	その他財源	千円	千円	千円	千円	千円					
	雄武町負担額 (一般財源)	2,118 千円	2,150 千円	2,150 千円	2,150 千円	2,150 千円					
	合計	2118 千円	2150 千円	2150 千円	2150 千円	2150 千円					

2 事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	冬期間失業となる労働者	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	
【抱える課題やニーズは】	通年雇用を確保できないことにより、生活基盤が不安定となり、消費活動が鈍化する。	通年雇用者及び冬期間就労人口	
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	冬期失業者の解消	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値
		① 実績人数(通年雇用者)	目標年度 20年度
			目標値 5 人
			実績値 3 人
			達成度 60.0 %
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果＝目的	通年雇用の実現によって生活基盤が安定し、それによる購買力向上が地域経済活性化をもたらす。	② 実績人数(冬期就労人員)	目標年度 20年度
			目標値 20 人
			実績値 15 人
			達成度 75 %
		内 容(どのような手段で何を行ったか)	
除排雪業務の委託	冬期間における歩道や公営住宅団地内通路の確保、防雪柵解体作業、町道排雪作業の補助、各保育所及び社会福祉施設、各バス待合室等の除排雪委託。		
協議会への負担金支出	西紋地域5市町村により構成されている「西紋別地域通年雇用促進支援協議会」への負担金支出。		

3 事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	☐ 義務的なもの	除排雪作業等については対象が公共性の高い場所であることから、恒久的に必要なものである。 通年雇用対策については、当町のみならず周辺市町村共通の課題であり、町単独では事業実施範囲が限定される可能性があることから、広域連携が必要である。
必要／概ね必要／課題あり	☐ 全部 ☐ 一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

概ね有効	設定した目標値の達成状況	目標値を若干下回ったが、平成20年秋以降の急激な景気悪化や、降雪量が少なかったことを考えると、十分な事業効果があったと判断する。
有効／概ね有効／課題あり	☐ 達成 ☒ ほぼ達成 ☐ 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	除排雪作業等については、公共工事に使用する労務単価を使用するなど、過剰なコスト算定は行われておらず効率的と判断する。 通年雇用対策事業については、国・道からの委託料が主たる財源であり、総体事業費に対する市町村負担金は小額なことから、効率的であるとする。
効率的／概ね効率的／課題あり	☒ 事業費抑制 ☐ 人員削減 ☐ 時間短縮・作業軽減 ☐ その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	受益者負担は発生しないが、公共性の高い場所の除雪であることから公平であると判断する。
公平／概ね公平／公平でない	☐ 受益者負担がある ☒ 受益者負担がない ☐ 受益が一部に偏る ☐ その他	

4 総合評価【A～D】

- A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
 B:ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
 C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
 D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A 冬期就労対策になるのみならず、円滑な交通や安全性が確保されるため適当と判断する。 通年雇用対策についても事業効果が現れ始めており、当分は現状維持が適当である。		

今後の展開方向
(Action)

継続／現状維持		
除排雪作業については恒久的に必要な事業である。通年雇用対策については景気等外的要因に左右される部分が多いが、当町のような過疎地では町が取り組む必要がある。		

*展開方向の区分

○ 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○ 終了 ○ 休止 ○ 廃止

5 その他特記事項 (アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

--

平成 21 年度 事務事業事後評価調書（平成 20 年度事業）

整理番号 8 - 49

1 事務事業の表示

※ ■ : 該当

事務事業名	商工業振興事業											
評価者	担当課名		産業振興課		担当係名		商工観光係					
	管理職	職名	課長		作成者	職名	係長					
		氏名	石井弘道			氏名	石山英伸					
事業の概要	町内小規模事業者の経営改善には商工会による指導が必要不可欠であるが、商工会は法令により収益事業の実施に制限がため、補助金交付規則に基づき運営費補助を行っている。						全体計画 / 単年度繰返 (平成 20 年度～ 24 年度)					
							事業費	国・道支出金				千円
								地方債				千円
								その他				千円
								一般財源	50,000			千円
						事業費計	50,000			千円		
実施方法	■ 直 営		民間委託		その他 ()							
第 5 期 総 合 計 画 (前期)			■ 登載事業		非登載事業		優先度		A			
事業の位置付け	政策目標	1 はつらつ・雄武～地域産業の振興～										
	基本施策	4 商工業の振興										
	単位施策	1 事業所の体力づくりへの支援										
	事務事業の種類	■ 自治事務		法定受託事務								
	その他計画・根拠等	商工会法、雄武町商工業振興事業補助金交付規則										
事業費	実施年度	20年度(実績)	21年度(見込)	22年度(計画)	23年度(計画)	24年度(計画)						
	国・道支出金	千円	千円	千円	千円	千円						
	地方債	千円	千円	千円	千円	千円						
	その他財源	千円	千円	千円	千円	千円						
	雄武町負担額 (一般財源)	10,000 千円	10,000 千円	10,000 千円	10,000 千円	10,000 千円						
	合 計	10000 千円	10000 千円	10000 千円	10000 千円	10000 千円						

2 事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	雄武町商工会	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)			
【抱える課題やニーズは】	商工会の指導体制強化	小規模事業者及び商工会会員数			
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	商工会の指導体制強化を図ることで町内小規模事業者の経営改善を実現し、購買力の町外流出防止と商店街の再生を目指す。	① 会員数	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
			目標年度	20年度	
			目標値	220 人	
			実績値	194 人	
			達成度	88.2 %	
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果＝目的	消費者ニーズの適格な把握と各商店の経営効率改善により、商工業の活性化が図られる。	②	目標年度		
			目標値		
			実績値		
			達成度	%	
			内 容(どのような手段で何を行ったか)		
商工会への人件費・指導事業費補助	・指導人件費(事業費－国・道補助金)×80%補助 ・指導事業費(事業費－国・道補助金)×70%補助				

3 事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	☐ 義務的なもの	商工会は小規模事業者の経営改善を支援することが法律で定められており、これを指導する職員の配置は必須である。しかし、商工会は自己財源の確保が困難であり、商工業の経営健全化推進の観点から、休止等の措置はできないものと判断される。
	☐ 全部 ☐ 一部	
必要／概ね必要／課題あり		

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

概ね有効	設定した目標値の達成状況	長期にわたる景気消費や後継者不在等の理由から、廃業する店舗(商工会脱退)が顕著となり、目標値を下回る形となった。しかし、商店街再生を目的とした新規事業を実施するなど、課題の解決に向けた新たな取り組みを始めつつある。
	☐ 達成 ☒ ほぼ達成 ☐ 下回る	
有効／概ね有効／課題あり		

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	本補助金は、細部にわたっての精査の上で金額を算定しており、今後の飛躍的な削減は見込めないものと判断する。
	☒ 事業費抑制 ☐ 人員削減 ☐ 時間短縮・作業軽減 ☐ その他	
効率的／概ね効率的／課題あり		

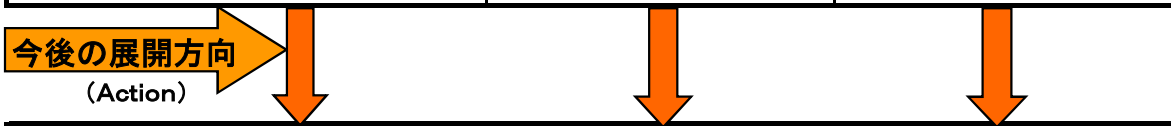
(4)事務事業の公平性

概ね公平	判断の理由	特定団体への補助であるが、商工会は商工会法により定められている公共性の高い団体であることから、公平性は担保されていると判断する。
	☐ 受益者負担がある ☐ 受益者負担がない ☐ 受益が一部に偏る ☒ その他	
公平／概ね公平／公平でない		

4 総合評価【A～D】

- A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
 B:ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
 C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
 D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
目標達成度は下回ったものの、商工会において自己財源の確保が困難であることと、商工業の経営健全化推進の観点から、休止等の措置はできない。		



継続／現状維持		
現在、商工会では空き店舗対策事業等、限られた予算・人員の中で新たな事業展開を模索しており、今後の商店街活性化と生き残りのため、現状どおりの支援が必要と考える。		

*展開方向の区分

○ 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○ 終了 ○ 休止 ○ 廃止

5 その他特記事項 (アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

--

平成 21 年度 事務事業事後評価調書（平成 20 年度事業）

整理番号 8 - 50

1 事務事業の表示

※ ■ : 該当

事務事業名	商業活性化推進事業										
評価者	担当課名		産業振興課		担当係名		商工観光係				
	管理職	職名	課長		作成者	職名	係長				
		氏名	石井弘道			氏名	石山英伸				
事業の概要	町外への消費流出を防ぎ、地元での購買意識の高揚を図るためプレミアム商品券発行事業に対する補助支援を商工会に対して行っている。						全体計画 / 単年度繰返 (平成 20 年度～ 24 年度)				
							事業費	国・道支出金		千円	
								地方債		千円	
								その他		千円	
								一般財源		6,000 千円	
事業費計		6,000 千円									
実施方法	■ 直 営		民間委託		その他 ()						
第 5 期 総 合 計 画 (前期)			■ 登載事業		非登載事業		優先度		A		
事業の位置付け	政 策 目 標		1 はつらつ・雄武～地域産業の振興～								
	基 本 施 策		4 商工業の振興								
	単 位 施 策		2 多様なビジネス展開の促進								
	事務事業の種類		■ 自治事務		法定受託事務						
	その他計画・根拠等										
事業費	実施年度	20年度(実績)	21年度(見込)	22年度(計画)	23年度(計画)	24年度(計画)					
	国・道支出金	千円	千円	千円	千円	千円					
	地 方 債	千円	千円	千円	千円	千円					
	そ の 他 財 源	千円	千円	千円	千円	千円					
	雄武町負担額 (一般財源)	1,200 千円	1,200 千円	1,200 千円	1,200 千円	1,200 千円					
	合 計	1200 千円	1200 千円	1200 千円	1200 千円	1200 千円					

2 事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	雄武町商工会	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)					
【抱える課題やニーズは】	町外の量販店・郊外大型ショッピングセンターへ顧客が流出し、町内小売業の活力が低下している。	町内商工業の販売額					
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	地元での購買意欲を喚起し、販売額の向上を目指す。	① 販売枚数: 10,464枚 作製枚数: 10,500枚	指標(指標計算式/解説)			目標値及び実績値	
			目標年度	20年度			
			目 標 値	10500 枚			
			実 績 値	10464 枚			
			達 成 度	99.7 %			
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果＝目的	町経済が活性化し、地元商工業者の経営基盤が安定する。	②	目標年度				
			目 標 値				
			実 績 値				
			達 成 度	%			
			内 容(どのような手段で何を行ったか)				
プレミアム商品券の発行に係る割引率の補助	1枚1,000円を850円で販売、15%の割引率のうち12%を補助						

3 事務事業の評価(Check)

(1) 事務事業の必要性(町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	☐ 義務的なもの	経済の長期低迷と購買力の町外流出が続く中、地元における消費拡大のため、当面は行政の支援が必要である。
	☐ 全部 ☐ 一部	
必要／概ね必要／課題あり		

(2) 事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	計画枚数を短期間で完売していることから見て、町民へ定着も十分と考える。また、99%以上が使用(換金)されていることから一定の経済効果があったと判断する。
	☒ 達成 ☐ ほぼ達成 ☐ 下回る	
有効／概ね有効／課題あり		

(3) 事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

概ね効率的	判断の理由	行政の補助も必要であるが、原則は商工業者による自助努力であることから、住民のニーズに応えた商品提供、共同セールの開催、流通形態の見直し等、価格や品揃えを補う等の対策が迫られている。
	☒ 事業費抑制 ☐ 人員削減 ☐ 時間短縮・作業軽減 ☐ その他	
効率的／概ね効率的／課題あり		

(4) 事務事業の公平性

概ね公平	判断の理由	昨今の景気悪化から町民の関心が高く短期間で完売してしまうため、町民広くに普及していない。また、使用が特定業種に偏る傾向が見られる。
	☐ 受益者負担がある ☐ 受益者負担がない ☒ 受益が一部に偏る ☐ その他	
公平／概ね公平／公平でない		

4 総合評価【A～D】

- A: 計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
 B: ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
 C: 当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
 D: 事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A	A	
課題はあるが事業効果が現れ始めており、町民が地元で買い物するためのインセンティブや、商工業者の自助努力を促進するためのきっかけとして必要と判断する。		

今後の展開方向

(Action)

継続／現状維持	継続／現状維持	
一世帯当たりの購入上限の引き下げ等により、町民広くに商品券が行き渡るような配慮が必要。また、使用できる商店についても商工会加盟店に限定せず対象を拡大し、町民に使いやすいものにすることや、特定業種に偏らないための工夫が必要。		

* 展開方向の区分

○ 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○ 終了 ○ 休止 ○ 廃止

5 その他特記事項 (アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

--

平成 21 年度 事務事業事後評価調書（平成 20 年度事業）

整理番号 8 - 51

1 事務事業の表示

※ ■ : 該当

事務事業名	ふるさと夏まつり盆踊り大会補助事業																			
評価者	担当課名		産業振興課		担当係名		商工観光係													
	管理職	職名	課長		作成者	職名	係長													
		氏名	石井弘道			氏名	石山英伸													
事業の概要	盆踊りは古くから夏休みの大きなイベントであり、主に自治会主催で町内各地でも行われてきたが、少子高齢化等の影響より存続が危ぶまれている。 大通り商店街主催の「サンパロットまつり」で盆踊りを行っているが、予算の都合上大変厳しい運営となっており、伝統行事の継続と商店街活性化を目的として運営費補助を行うものである。						全体計画 / 単年度繰返 (平成 20 年度～ 24 年度) <table border="1"> <tr> <td>国・道支出金</td> <td>千円</td> </tr> <tr> <td>地方債</td> <td>千円</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>千円</td> </tr> <tr> <td>一般財源</td> <td>2,500 千円</td> </tr> <tr> <td>事業費計</td> <td>2,500 千円</td> </tr> </table>				国・道支出金	千円	地方債	千円	その他	千円	一般財源	2,500 千円	事業費計	2,500 千円
国・道支出金	千円																			
地方債	千円																			
その他	千円																			
一般財源	2,500 千円																			
事業費計	2,500 千円																			
実施方法	■ 直営		民間委託		その他 ()															
第 5 期 総合計画 (前期)			■ 登載事業		非登載事業		優先度		A											
事業の位置付け	政策目標		1 はつらつ・雄武～地域産業の振興～																	
	基本施策		4 商工業の振興																	
	単位施策		3 住民を支える商店街づくりへの支援																	
	事務事業の種類		■ 自治事務		法定受託事務															
	その他計画・根拠等																			
事業費	実施年度	20年度(実績)	21年度(見込)	22年度(計画)	23年度(計画)	24年度(計画)														
	国・道支出金	千円	千円	千円	千円	千円														
	地方債	千円	千円	千円	千円	千円														
	その他財源	千円	千円	千円	千円	千円														
	雄武町負担額 (一般財源)	500 千円	500 千円	500 千円	500 千円	500 千円														
	合計	500 千円	500 千円	500 千円	500 千円	500 千円														

2 事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	雄武町大通り商店街協同組合	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	
【抱える課題やニーズは】	予算上の制約と関係者の高齢化	イベント実施回数	
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	イベントを実施することで商店街の賑わいを演出し、町民同士・家族同士のふれあいの機会を作る。	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値
		① 実施回数	目標年度 20年度
			目標値 1 回
			実績値 1 回
			達成度 100.0 %
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果＝目的	商店街関係者のみならず多くの団体等が関わることにより、町全体の行事として定着し、賑わいのある商店街実現の一端を担う。	②	目標年度
			目標値
			実績値
			達成度 %
		内 容(どのような手段で何を行ったか)	
補助金の支出	「サンパロットまつり」開催に対する補助金支出。 内容は、盆踊り、歌謡ステージ、縁日、売店等の各種アトラクションの実施等。		

3 事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	☐ 義務的なもの	当事業は大通り商店街協同組合の財政上の制約によりイベント開催が危惧されたことに起因するものであることから、イベントが定着し、軌道に乗るまでは支援が必要と考える。
	☐ 全部 ☐ 一部	
必要／概ね必要／課題あり		

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	1,200人が来場し、多くの人が盆踊りに参加するなど、期待した効果はあったと判断する。
	☒ 達成 ☐ ほぼ達成 ☐ 下回る	
有効／概ね有効／課題あり		

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	実行団体にあっては、限られた予算・人員の中で企画実施しており、効率的と判断する。
	☒ 事業費抑制 ☐ 人員削減 ☐ 時間短縮・作業軽減 ☐ その他	
効率的／概ね効率的／課題あり		

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	町民広くを対象としたイベント開催事業であることから、公平と判断する。
	☒ 受益者負担がある ☐ 受益者負担がない ☐ 受益が一部に偏る ☐ その他	
公平／概ね公平／公平でない		

4 総合評価【A～D】

- A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
 B:ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
 C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
 D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
関係者の高齢化と人手不足という問題はあったものの、多くの町民が集い盆踊りを楽しんだことから、目標は達成されたと判断する。		

今後の展開方向
(Action)

継続／現状維持		
商店街関係者のみならず多くの団体等が関わることで、町全体の行事として定着させるための工夫が必要である。		

*展開方向の区分

○ 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○ 終了 ○ 休止 ○ 廃止

5 その他特記事項 (アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

--

平成 21 年度 事務事業事後評価調書（平成 20 年度事業）

整理番号 8 - 52

1 事務事業の表示

※ ■ : 該当

事務事業名	中小企業等振興事業						
評価者	担当課名		産業振興課		担当係名		
	管理職	職名	課長		作成者	職名	
		氏名	石井弘道			氏名	石山英伸
事業の概要	地域の中小企業等の多岐にわたる経済活動を支援するため、町は一定範囲にて町内信用金庫に資金を預託し、各信用金庫は独自資金に預託金を加えることにより融資を実行している。また、当制度より融資を受けた中小企業者に対し、支払った保証料の80%を補給している。				全体計画 / 期間限定複数年度 (平成 20 年度 ~ 24 年度)		
					事業費	国・道支出金	千円
						地方債	千円
						その他	250,000 千円
						一般財源	27,500 千円
						事業費計	277,500 千円
実施方法	■ 直営		民間委託	その他 ()			
第 5 期 総合計画 (前期)		■ 登載事業		非登載事業	優先度	B	
事業の位置付け	政策目標	1 はつらつ・雄武～地域産業の振興～					
	基本施策	4 商工業の振興					
	単位施策	1 事業所の体力づくりへの支援					
	事務事業の種類	■ 自治事務		法定受託事務			
	その他計画・根拠等	雄武町中小企業等振興条例					
事業費	実施年度	20年度(実績)	21年度(見込)	22年度(計画)	23年度(計画)	24年度(計画)	
	国・道支出金	千円	千円	千円	千円	千円	
	地方債	千円	千円	千円	千円	千円	
	その他財源	50,234 千円	40,000 千円	40,000 千円	40,000 千円	40,000 千円	
	雄武町負担額 (一般財源)	1,068 千円	1,290 千円	1,290 千円	1,290 千円	1,290 千円	
	合計	51302 千円	41290 千円	41290 千円	41290 千円	41290 千円	

2 事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町内中小企業者等	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)		
【抱える課題やニーズは】	経済の低迷により企業収益が向上せず、設備投資等のため継続的な資金調達が必要となっている。	融資実行件数及び金額、助成件数		
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	貸付制度の利用により、継続的な事業展開が可能となる。また、保証料補助によって中小企業ゆえに高額となりがちな保証料の負担感を軽減している。	① 融資件数	指標(指標計算式/解説)	
			目標年度	20年度
			目標値	40 件
			実績値	31 件
			達成度	77.5 %
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果＝目的	円滑な融資が継続されることにより、地元中小企業の資金調達が容易となり、経営基盤の安定が図られる。	② 施設設置・新製品開発等に対する助成件数	目標年度	20年度
			目標値	3 件
			実績値	0 件
			達成度	0 %
			内 容(どのような手段で何を行ったか)	
中小企業融資に係る保証料の補給補助	融資を受けた中小企業者が支払った保証料の80%を補給する。			
各金融機関への貸付金預託	地域の中小企業等の多岐にわたる経済活動を支援するため、町は一定範囲にて町内信用金庫に資金を預託し、各信用金庫は独自資金に預託金を加えることにより融資の原資を確保している。			
施設整備に対する補助	施設設置に係る助成については固定資産税評価額(1,000万円を超えるものは1,000万円)の10/100相当額、新製品開発に係る助成については、事業に要した経費(1,000万円を超えるものは1,000万円)の10/100相当額を補助する。			

3 事務事業の評価(Check)

(1) 事務事業の必要性(町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要 必要／概ね必要／課題あり	☐ 義務的なもの	地域経済の活性化と中小企業等の経営基盤安定のため、地元中小企業者が使いやすい制度資金は必要と考える。
	☐ 全部 ☐ 一部	

(2) 事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効 有効／概ね有効／課題あり	設定した目標値の達成状況	本事業の実施により、円滑かつ継続的な資金調達が確保されている。昨春秋以降の世界的不況の影響によって申請件数も増加しており、本事業の有効性は高いと判断する。
	☒ 達成 ☐ ほぼ達成 ☐ 下回る	

(3) 事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的 効率的／概ね効率的／課題あり	判断の理由	中小企業の支払った保証料実績に応じた補給補助であるため、過剰な補給補助は発生しておらず、効率的と判断する。
	☒ 事業費抑制 ☐ 人員削減 ☐ 時間短縮・作業軽減 ☐ その他	

(4) 事務事業の公平性

公平 公平／概ね公平／公平でない	判断の理由	町内全ての中小企業者等を対象としており、公平と判断できる。
	☐ 受益者負担がある ☐ 受益者負担がない ☐ 受益が一部に偏る ☒ その他	

4 総合評価【A～D】

- A: 計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
 B: ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
 C: 当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
 D: 事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
昨春秋以降の世界的不況により融資件数が急増しており、雇用維持・地域経済活性化の観点から本事業は有効と判断される。		

今後の展開方向

(Action)

継続／現状維持		
中小企業者が使いやすい融資制度を堅持する必要性はあるが、昨今の経済情勢から国が積極的な景気対策を打ち出しており、関係法令との整合性を踏まえた見直しが必要と思われる。(※現行条例が終了する平成22年度末に見直し)		

* 展開方向の区分

○ 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○ 終了 ○ 休止 ○ 廃止

5 その他特記事項 (アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

--

平成 21 年度 事務事業事後評価調書（平成 20 年度事業）

整理番号 8 - 53

1 事務事業の表示

※ ■ : 該当

事務事業名	地域交流センター管理清掃業務委託事業										
評価者	担当課名		産業振興課		担当係名		商工観光係				
	管理職	職名	課長		作成者	職名	係長				
		氏名	石井弘道			氏名	石山英伸				
事業の概要	地域交流センター内に事務所を開設している雄武町商工会に、施設の管理業務及び清掃業務を委託している。						全体計画 / 単年度繰返				
							(平成 20 年度～ 24 年度)				
							事業費	国・道支出金	千円		
							地方債	千円			
							その他	千円			
		一般財源	29,500 千円								
		事業費計	29,500 千円								
実施方法	直営		■ 民間委託		□ その他 ()						
第 5 期 総合計画 (前期)			■ 登載事業		□ 非登載事業		優先度	B			
事業の位置付け	政策目標	1 はつらつ・雄武～地域産業の振興～									
	基本施策	4 商工業の振興									
	単位施策	3 住民を支える商店街づくりへの支援									
	事務事業の種類	■ 自治事務		□ 法定受託事務							
	その他計画・根拠等										
事業費	実施年度	20年度(実績)	21年度(見込)	22年度(計画)	23年度(計画)	24年度(計画)					
	国・道支出金	千円	千円	千円	千円	千円					
	地方債	千円	千円	千円	千円	千円					
	その他財源	千円	千円	千円	千円	千円					
	雄武町負担額 (一般財源)	5,839 千円	5,900 千円	5,900 千円	5,900 千円	5,900 千円					
	合計	5839 千円	5900 千円	5900 千円	5900 千円	5900 千円					

2 事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	雄武町商工会	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)			
【抱える課題やニーズは】	より充実した運営・管理のため、民間ノウハウを活用した指定管理者制度導入の検討を要する。	利用者数			
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	地域交流センターは市街地の中心に位置し、「道の駅」の指定も受けている。通年で多くの人々が訪れる雄武の顔とも言える施設であることから、良好な管理・運営により利用者へのサービスを図る。	① 適切な維持管理 平成20年度利用者数 11,773人	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
			目標年度		
			目標値		
			実績値		
			達成度	%	
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果＝目的	清潔で快適な施設の提供に加え、特産品の売買取や観光情報の発信によってサービス向上を目指す。	②	目標年度		
			目標値		
			実績値		
			達成度	%	
			内 容(どのような手段で何を行ったか)		
施設の維持管理・清掃業務の委託	施設内に事務所を開設している商工会への業務委託				

3 事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	☐ 義務的なもの	商工会は建物内に事務所を開設していることから施設状況を熟知しており、委託先とすることにより効率化が図られる。また、当施設は商業地域内の中核施設として位置づけられていることから、商工業に精通している団体に委託することが適当と考える。
	☐ 全部 ☐ 一部	
必要／概ね必要／課題あり		

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	施設の管理状況の報告、異常個所の報告等、迅速な対応もなされており、有効と判断する。
	☒ 達成 ☐ ほぼ達成 ☐ 下回る	
有効／概ね有効／課題あり		

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	公共工事に使用する労務単価を使用するなど、過剰なコスト算定は行われておらず効率的と判断する。また、消耗品については委託契約の中に含めず役場で購入していることから、委託費用の大半は人件費相当分であり、大幅な削減は見込めない。
	☒ 事業費抑制 ☐ 人員削減 ☐ 時間短縮・作業軽減 ☐ その他	
効率的／概ね効率的／課題あり		

(4)事務事業の公平性

概ね公平	判断の理由	特定団体との随意契約であるが、商工会は商工会法により定められている公共性の高い団体であることから、公平性は担保されていると判断する。
	☐ 受益者負担がある ☐ 受益者負担がない ☐ 受益が一部に偏る ☒ その他	
公平／概ね公平／公平でない		

4 総合評価【A～D】

- A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
 B:ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
 C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
 D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
適切な維持管理が実施されており、目標は達成されていると判断する。		

今後の展開方向
(Action)

継続／現状維持		
当面は現状維持が望ましいが、将来的には指定管理者制度の導入について検討を要する。		

*展開方向の区分

○ 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○ 終了 ○ 休止 ○ 廃止

5 その他特記事項 (アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

--

平成 21 年度 事務事業事後評価調書（平成 20 年度事業）

整理番号 8 - 54

1 事務事業の表示

※ ■ : 該当

事務事業名	大通り商店街協同組合運営費補助事業											
評価者	担当課名		産業振興課		担当係名		商工観光係					
	管理職	職名	課長		作成者	職名	係長					
		氏名	石井弘道			氏名	石山英伸					
事業の概要	大通り商店街近代化事業については、平成9年度の共同施設の完成をもって完了したものの、公共性の極めて高い国道（大通り商店街）の街灯について、他の街灯料金に対する各自治会への補助同様、その電気料を補助している。						全体計画 / 単年度繰返 (平成 20 年度～ 24 年度)					
							事業費	国・道支出金				千円
								地方債				千円
								その他				千円
								一般財源	1,600			千円
								事業費計	1,600			千円
実施方法	■ 直 営		民間委託		その他 ()							
第 5 期 総 合 計 画 (前期)			■ 登載事業		非登載事業		優先度	B				
事業の位置付け	政策目標	1 はつらつ・雄武～地域産業の振興～										
	基本施策	4 商工業の振興										
	単位施策	3 住民を支える商店街づくりへの支援										
	事務事業の種類	■ 自治事務		法定受託事務								
	その他計画・根拠等											
事業費	実施年度	20年度(実績)	21年度(見込)	22年度(計画)	23年度(計画)	24年度(計画)						
	国・道支出金	千円	千円	千円	千円	千円						
	地方債	千円	千円	千円	千円	千円						
	その他財源	千円	千円	千円	千円	千円						
	雄武町負担額 (一般財源)	320 千円	320 千円	320 千円	320 千円	320 千円						
	合 計	320 千円	320 千円	320 千円	320 千円	320 千円						

2 事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	雄武町大通り商店街協同組合	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)			
【抱える課題やニーズは】	組合員の減少(廃業等)、組織体制の強化	組合員数			
		指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値		
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	空き店舗の活用等により、商店街の活性化を図る。	① 補助団体数	目標年度	20年度	
			目標値	1 団体	
			実績値	1 団体	
			達成度	100.0 %	
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果＝目的	商店街活性化による組合員数増(組織強化)	②	目標年度		
			目標値		
			実績値		
			達成度	%	
内 容(どのような手段で何を行ったか)					
街灯電気料の補助	街灯電気料金に対する補助				

3 事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	☐ 義務的なもの	本来は自助努力により街灯費の負担を行うべきであるが、組合維持運営に係る経費増から困難であり、夜間の防犯上、商店街の集客上、公共性の高いものと判断されることから、町による補助が必要である。さらに、自治会への街灯費補助との関連も視野に入れ、必要と判断される。
	☐ 全部 ☐ 一部	
必要／概ね必要／課題あり		

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	これまでに商店街での犯罪が少ないこと、限られた予算においてサンパロットまつりの開催や冬期イルミネーションの設置による街並み装飾・植栽等の活動を行っていることを鑑み、有効と判断する。
	☒ 達成 ☐ ほぼ達成 ☐ 下回る	
有効／概ね有効／課題あり		

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	街灯料金に対する補助であることから、過剰なコストが発生する余地は無いが、将来的には省エネ街灯(LED)導入によるランニングコスト抑制について検討を要する。
	☒ 事業費抑制 ☐ 人員削減 ☐ 時間短縮・作業軽減 ☐ その他	
効率的／概ね効率的／課題あり		

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	各自治会への街灯電気代補助に準じたものであり、公共性の高い場所であることから、概ね公平と判断する。
	☒ 受益者負担がある ☐ 受益者負担がない ☐ 受益が一部に偏る ☐ その他	
公平／概ね公平／公平でない		

4 総合評価【A～D】

- A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
 B:ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
 C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
 D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
公共性の高い場所にある街灯の料金補助であることから、現行の措置を継続する必要がある。		

今後の展開方向
(Action)

継続／現状維持		
対象が公共性の高い場所であることから、現行の措置を継続する必要がある。また、商店街活性化について何らかの取り組みを行うよう働きかける必要があると考える。		

*展開方向の区分

○ 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○ 終了 ○ 休止 ○ 廃止

5 その他特記事項 (アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

--

平成 21 年度 事務事業事後評価調書（平成 20 年度事業）

整理番号 8 - 55

1 事務事業の表示

※ ■ : 該当

事務事業名	消費者協会運営補助事業						
評価者	担当課名		産業振興課	担当係名		商工観光係	
	管理職	職名	課長	作成者	職名	係長	
		氏名	石井弘道		氏名	石山英伸	
事業の概要	地域の消費者(町民)に対して、消費の合理化(家計の効率化、安心・安全なものの消費等)を普及するとともに、悪質商法等による消費者の利益を保護し、消費生活の安定向上を図るため、活動運営費の一部を補助している。				全体計画 / 単年度繰返 (平成 20 年度 ~ 24 年度)		
					事業費	国・道支出金	千円
						地方債	千円
						その他	千円
						一般財源	1,000 千円
事業費計		1,000 千円					
実施方法	■ 直 営		民間委託	その他 ()			
第 5 期 総 合 計 画 (前期)			■ 登載事業	非登載事業	優先度	B	
事業の位置付け	政策目標	4 うるおい・雄武～生活環境・生活基盤の充実～					
	基本施策	20 防犯・交通安全の推進					
	単位施策	1 防犯体制の強化					
	事務事業の種類	■ 自治事務		法定受託事務			
	その他計画・根拠等						
事業費	実施年度	20年度(実績)	21年度(見込)	22年度(計画)	23年度(計画)	24年度(計画)	
	国・道支出金	千円	千円	千円	千円	千円	
	地方債	千円	千円	千円	千円	千円	
	その他財源	千円	千円	千円	千円	千円	
	雄武町負担額 (一般財源)	200 千円	200 千円	200 千円	200 千円	200 千円	
	合 計	200 千円	200 千円	200 千円	200 千円	200 千円	

2 事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	雄武町消費者協会	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)					
【抱える課題やニーズは】	協会事業の運営(会費徴収)は健全だが、協会の高齢化、消費相談体制(専門者育成)の不足が課題となっている。	消費相談件数					
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	会員の活動強化、消費相談専門体制の確立により、通年恒久的な消費対策事業の実施・啓発。	① 消費相談件数	指標(指標計算式/解説)			目標年度 20年度	
			目標値及び実績値			目 標 値	20 件
			実績値			0 件	
			達成度			0.0 %	
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	町民(消費者)の日常消費生活上の安全性が確保される。	②	目標年度			目 標 値	
			実績値				
			達成度			%	
内 容(どのような手段で何を行ったか)							
運営補助金補助	毎月20日に行われる定例消費相談、協会員向け情報提供、消費生活展の開催等、協会の活動に対する補助						

3 事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	☐ 義務的なもの	組織の運営は健全だが、消費相談に対応する専門員の育成が急務であり、町が事務局を担う状況の解消、民間レベルでの運営体制の確立が必要と考える。
	☐ 全部 ☐ 一部	
必要／概ね必要／課題あり		

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

概ね有効	設定した目標値の達成状況	現実には消費相談対応は事務局が行っており、その点においては課題が残る。啓発事業等の活動については概ね達成しているものと判断する。
	☒ 達成 ☐ ほぼ達成 ☐ 下回る	
有効／概ね有効／課題あり		

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	運営補助金については、原状の運営状況から必要最低限の補助であり、充分削減しているものと判断する。
	☐ 事業費抑制 ☐ 人員削減 ☐ 時間短縮・作業軽減 ☒ その他	
効率的／概ね効率的／課題あり		

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	任意団体ではあるが、町民広くを対象とした相談業務・啓発活動等を行っており、公正性は確保されていると判断する。
	☐ 受益者負担がある ☐ 受益者負担がない ☐ 受益が一部に偏る ☒ その他	
公平／概ね公平／公平でない		

4 総合評価【A～D】

- A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
 B:ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
 C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
 D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
会員の高齢化、消費相談専門員の育成等の課題等が解消されるまでは、現状どおり事業を進めることが適当と判断する。		

今後の展開方向
(Action)

継続／現状維持		
会員の高齢化、消費相談専門員の育成等の課題等が解消されることにより、消費者のニーズに応えるサービスが行え、消費者が安全に生活できる体制が構築できる。		

*展開方向の区分

○ 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○ 終了 ○ 休止 ○ 廃止

5 その他特記事項 (アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

--

平成 21 年度 事務事業事後評価調書（平成 20 年度事業）

整理番号 8 - 56

1 事務事業の表示

※ ■ : 該当

事務事業名	中小企業等緊急経営安定化支援対策事業										
評価者	担当課名		産業振興課		担当係名		商工観光係				
	管理職	職名	課長		作成者	職名	係長				
		氏名	石井弘道			氏名	石山英伸				
事業の概要	急激な景気悪化に苦しむ中小企業への支援として、国が実施している「セーフティネット保証制度」及び道が実施している「経営安定化資金貸付制度」により融資を受けた町内中小企業者等に対し、町が独自に利子補給と保証料補助を行う。						全体計画 / 期間限定複数年度 (平成 年度 ~ 年度)				
							事業費	国・道支出金		千円	
								地方債		千円	
								その他		千円	
								一般財源		千円	
事業費計		千円									
実施方法	■ 直営		民間委託		その他 ()						
第 5 期 総合計画 (前期)			登載事業		■ 非登載事業		優先度				
事業の位置付け	政策目標	1 はつらつ・雄武～地域産業の振興～									
	基本施策	4 商工業の振興									
	単位施策	1 事業所の体力づくりへの支援									
	事務事業の種類	■ 自治事務		法定受託事務							
	その他計画・根拠等										
事業費	実施年度	20年度(実績)	21年度(見込)	22年度(計画)	23年度(計画)	24年度(計画)					
	国・道支出金	千円	千円	千円	千円	千円					
	地方債	千円	千円	千円	千円	千円					
	その他財源	千円	千円	千円	千円	千円					
	雄武町負担額 (一般財源)	608 千円	7,400 千円	7,400 千円	千円	千円					
	合 計	608 千円	7400 千円	7400 千円	千円	千円					

2 事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町内中小企業者等	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)			
【抱える課題やニーズは】	急激な景気悪化による資金繰りの圧迫	融資実行件数及び金額			
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	緊急融資による資金繰りの支援を行い、町内企業の倒産防止と従業員の雇用確保を支援する。	① 融資件数	指標(指標計算式/解説)		目標年度 20年度
			目標値及び実績値		目標年度
			目標値	25	
			実績値	12	
			達成度	48.0 %	
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果＝目的	緊急融資による資金調達で不況を乗り越えることにより、町内における生産と雇用が維持される。	②	目標年度		目標年度
			目標値		目標年度
			実績値		
			達成度	%	
			内 容(どのような手段で何を行ったか)		
中小企業等への補助	・保証料補助 50% ・利子補給 100%(ただし、融資開始から3年間)				

3 事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	☐ 義務的なもの	100年に1度と言われる世界的な大不況であることから、町経済と町民の雇用を守るための緊急措置であり、必要な支援である。
必要／概ね必要／課題あり	☐ 全部 ☐ 一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	利子及び保証料の負担が軽減されることから、多くの町内事業者が限度額(1,000万円)に達する融資を受けるなど、十分な融資が行われたと判断する。
有効／概ね有効／課題あり	☐ 達成 ☒ ほぼ達成 ☐ 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	中小企業の支払った利子・保証料実績に応じた補給補助であるため、過剰な補給補助は発生しておらず、効率的と判断する。
効率的／概ね効率的／課題あり	☒ 事業費抑制 ☐ 人員削減 ☐ 時間短縮・作業軽減 ☐ その他	

(4)事務事業の公平性

概ね公平	判断の理由	対象者が制度利用者に限られるが、一次産業を除く町内ほぼ全ての業種が対象となっていることから、公正性は概ね確保されていると判断する。
公平／概ね公平／公平でない	☒ 受益者負担がある ☐ 受益者負担がない ☐ 受益が一部に偏る ☐ その他	

4 総合評価【A～D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等

B:ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要 等

C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等

D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A	A	
緊急融資の実施により、資金繰りに窮する企業も発生せず、町経済活性化と雇用の維持という目標を達成できたと判断する。		

今後の展開方向 (Action)		
継続／現状維持	継続／現状維持	
平成22年度末までの時限措置であり、緊急性の高い事業であることから、計画通り進めることが適当である。		
*展開方向の区分 ☐ 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ☐ 終了 ☐ 休止 ☐ 廃止		

5 その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

--

平成 21 年度 事務事業事後評価調書（平成 20 年度事業）

整理番号 8 - 57

1 事務事業の表示

※ ■ : 該当

事務事業名	産業観光まつり運営助成事業										
評価者	担当課名		産業振興課		担当係名		商工観光係				
	管理職	職名	課長		作成者	職名	係長				
		氏名	石井弘道			氏名	石山英伸				
事業の概要	町の物産と観光を広く町内外に紹介し、農林水産業及び商工業の振興を図るとともに、全町民参加型の祭典として毎年6月に開催している。 内容は、特産品の展示即売・各種アトラクション・ゲーム等。						全体計画 / 単年度繰返 (平成 20 年度 ~ 24 年度) 事業費 国・道支出金 千円 地方債 千円 その他 1,000 千円 一般財源 15,000 千円 事業費計 16,000 千円				
実施方法	■ 直 営		民間委託		その他 ()						
第 5 期 総 合 計 画 (前期)			■ 登載事業		非登載事業		優先度	A			
事業の位置付け	政策目標	1 はつらつ・雄武～地域産業の振興～									
	基本施策	5 観光の振興									
	単位施策	1 雄武観光の売り込み									
	事務事業の種類	■ 自治事務		法定受託事務							
	その他計画・根拠等										
事業費	実施年度	20年度(実績)	21年度(見込)	22年度(計画)	23年度(計画)	24年度(計画)					
	国・道支出金	千円	千円	千円	千円	千円					
	地方債	千円	千円	千円	千円	千円					
	その他財源	千円	千円	千円	千円	千円					
	雄武町負担額(一般財源)	3,000 千円	3,000 千円	3,000 千円	3,000 千円	3,000 千円					
	合 計	3000 千円	3000 千円	3000 千円	3000 千円	3000 千円					

2 事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	雄武町産業観光まつり実行委員会	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	
【抱える課題やニーズは】	付加価値複合品の開発・販売等PR、核となるアトラクション等の確立	入込み観客数	
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	魅力あるアトラクション、付加価値販売品目の創造	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値
		① 開催回数	目標年度 20年度
			目標値 1 回
			実績値 1 回
			達成度 100.0 %
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果＝目的	魅力あるアトラクションと付加価値販売品目の創造による集客増	②	目標年度
			目標値
			実績値
			達成度 %
内 容(どのような手段で何を行ったか)			
補助金の支出	産業観光まつり開催に対する補助金の交付		

3 事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要 必要／概ね必要／課題あり	☐ 義務的なもの	町の物産と観光を広く町内外に紹介し、農林水産業及び商工業の振興を図るとともに、全町民が参加できる唯一のイベントであることから、必要と判断する。
	☐ 全部 ☐ 一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効 有効／概ね有効／課題あり	設定した目標値の達成状況	町民参加型アトラクションの実施や、特産物が安価で購入できるといったこともあり、過去最高の3万人の来場者を記録し、有効と判断できる。
	☒ 達成 ☐ ほぼ達成 ☐ 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的 効率的／概ね効率的／課題あり	判断の理由	実行委員会各構成団体にあつては、限られた予算・人員の中で企画実施しており、効率的と判断する。
	☒ 事業費抑制 ☒ 人員削減 ☐ 時間短縮・作業軽減 ☐ その他	

(4)事務事業の公平性

公平 公平／概ね公平／公平でない	判断の理由	町民広くを対象としたイベントであり、公平であると判断する。
	☐ 受益者負担がある ☐ 受益者負担がない ☐ 受益が一部に偏る ☒ その他	

4 総合評価【A～D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等

B:ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要 等

C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等

D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
町の特産物が安価で購入できるとともに、各種アトラクションで楽しめることから、町外からの集客も多く、今後も農林水産業・商工業の振興・観光PRのため継続実施が必要と考える。		

今後の展開方向

(Action)

継続／現状維持		
ここ数年、集客が順調に推移しており、今後も農林水産業・商工業の振興・観光PRのため継続実施が必要と考える。また、これまでにないアトラクションの実施や既存特産物に付加価値をつけた商品の開発・販売を実施すべきと考える。		

*展開方向の区分

○ 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○ 終了 ○ 休止 ○ 廃止

5 その他特記事項 (アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

--

平成 21 年度 事務事業事後評価調書（平成 20 年度事業）

整理番号 8 - 58

1 事務事業の表示

※ ■ : 該当

事務事業名	神門プロジェクト事業															
評価者	担当課名		産業振興課	担当係名		商工観光係										
	管理職	職名	課長	作成者	職名	係長										
		氏名	石井弘道		氏名	石山英伸										
事業の概要	当町で栽培されている韃靼そばは、食の分野においては乾麺をはじめとする様々な商品として販売されているが、飲の分野での商品開発に着目し、新たな農産品開発と観光振興を目的として、平成20年度より焼酎の製造(委託)を開始した。今後、毎年1万本を製造し、町はPRや販路拡大を行う。				全体計画 / 期間限定複数年度 (平成 20 年度～ 21 年度) <table border="1"> <tr> <td>国・道支出金</td> <td>千円</td> </tr> <tr> <td>地方債</td> <td>千円</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>11,000 千円</td> </tr> <tr> <td>一般財源</td> <td>17,100 千円</td> </tr> <tr> <td>事業費計</td> <td>28,100 千円</td> </tr> </table>		国・道支出金	千円	地方債	千円	その他	11,000 千円	一般財源	17,100 千円	事業費計	28,100 千円
国・道支出金	千円															
地方債	千円															
その他	11,000 千円															
一般財源	17,100 千円															
事業費計	28,100 千円															
実施方法	■ 直 営		民間委託	その他 ()												
第 5 期 総 合 計 画 (前期)		■ 登載事業		非登載事業	優先度	A										
事業の位置付け	政策目標	1 はつらつ・雄武～地域産業の振興～														
	基本施策	5 観光の振興														
	単位施策	1 雄武観光の売り込み														
	事務事業の種類	■ 自治事務		法定受託事務												
	その他計画・根拠等															
事業費	実施年度	20年度(実績)	21年度(見込)	22年度(計画)	23年度(計画)	24年度(計画)										
	国・道支出金	千円	千円	千円	千円	千円										
	地方債	千円	千円	千円	千円	千円										
	その他財源	3,477 千円	11,000 千円	千円	千円	千円										
	雄武町負担額 (一般財源)	8,579 千円	3,000 千円	千円	千円	千円										
	合 計	12056 千円	14000 千円	千円	千円	千円										

2 事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	焼酎愛好家、飲食店	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)		
【抱える課題やニーズは】	小売価格を抑えるため既存の流通ルートに頼らない販売をしているが、販路拡大に苦慮している。	製造・販売本数		
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	町民に定着し、10年後・20年後も愛される商品となることで、事業の安定した継続を実現する。	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
		① 製造本数 20年度末販売実績 5,403本	目標年度 20年度	
			目標値	10000
			実績値	10175
			達成度	101.8 %
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果＝目的	焼酎による物産・観光振興を図る。また、これをきっかけに農業分野における新たな特産品の創造を行い、ひいては遊休耕作地の活用等の農業振興にも寄与する。	②	目標年度	
			目標値	
			実績値	
			達成度	%
			内 容(どのような手段で何を行ったか)	
焼酎の委託製造	二世古酒造(倶知安町)に製造を委託し、20年度末までに10,175本の製造を行った。			
商品PR・販路拡大	町内の酒類販売店(コンビニを除く)に加え、現在は都市部での販路拡大にも取り組んでいる。また、ギフトセットの開発や原酒の製造など販促事業にも取り組んでいる。			

3 事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

概ね必要 必要／概ね必要／課題あり	☐ 義務的なもの	マンパワー、資金等の要因により町内の民間事業者による実施が難しかったことから、事業の立ち上げは町が担ったが、販売実績が安定した暁には適当な事業者への移管について検討を要する。
	☐ 全部 ☐ 一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効 有効／概ね有効／課題あり	設定した目標値の達成状況	平成20年9月から販売を開始したが、ここまで順調な売上を記録している。また、従来の海産物とは異なる新たな特産品ということで話題を呼び、町のPRIにも寄与したと判断する。
	☐ 達成 ☒ ほぼ達成 ☐ 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的 効率的／概ね効率的／課題あり	判断の理由	安価な商品価格を実現するため、製造原価や流通ルートで発生するマージンの抑制に取り組んでおり、効率的である。
	☒ 事業費抑制 ☐ 人員削減 ☐ 時間短縮・作業軽減 ☐ その他	

(4)事務事業の公平性

公平 公平／概ね公平／公平でない	判断の理由	販売品であることから受益者負担がある。
	☒ 受益者負担がある ☐ 受益者負担がない ☐ 受益が一部に偏る ☐ その他	

4 総合評価【A～D】

- A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
 B:ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
 C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
 D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
計画通りの製造を完了し、販売実績も順調に推移している。新たな特産品ということで話題になる機会も多く、町のPRIにも寄与した。		

今後の展開方向
(Action)

継続／現状維持		
町民に愛される酒となることを目指しているが、当事業は観光物産振興も目的としており、また町内のみで完売できる製造本数(毎年1万本製造)ではないことから、町外の販路拡大に一層力を入れる必要がある。		

*展開方向の区分

○ 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○ 終了 ○ 休止 ○ 廃止

5 その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

--

平成 21 年度 事務事業事後評価調書（平成 20 年度事業）

整理番号 8 - 59

1 事務事業の表示

※ ■ : 該当

事務事業名	観光協会運営助成事業					
評価者	担当課名		産業振興課	担当係名		商工観光係
	管理職	職名	課長	作成者	職名	係長
		氏名	石井弘道		氏名	石山英伸
事業の概要	雄武町観光協会への運営補助を行うものである。観光協会の主な事業としては、雄武の宝うまいもんまつの開催、産業観光まつりの協賛、ホームページ開設、毛ガニプレゼント事業、フォトコンテスト、観光ハンドブック作製などである。				全体計画 / 単年度繰返 (平成 20 年度 ~ 24 年度) 事業費 国・道支出金 千円 地方債 千円 その他 千円 一般財源 9,800 千円 事業費計 9,800 千円	
実施方法	■ 直 営		民間委託	その他 ()		
第 5 期 総 合 計 画 (前期)		■ 登載事業		非登載事業	優先度	A
事業の位置付け	政策目標	1 はつらつ・雄武～地域産業の振興～				
	基本施策	5 観光の振興				
	単位施策	1 雄武観光の売り込み				
	事務事業の種類	■ 自治事務		法定受託事務		
	その他計画・根拠等					
事業費	実施年度	20年度(実績)	21年度(見込)	22年度(計画)	23年度(計画)	24年度(計画)
	国・道支出金	千円	千円	千円	千円	千円
	地方債	千円	千円	千円	千円	千円
	その他財源	千円	千円	千円	千円	千円
	雄武町負担額 (一般財源)	2,100 千円	2,000 千円	2,000 千円	2,000 千円	2,000 千円
	合 計	2100 千円	2000 千円	2000 千円	2000 千円	2000 千円

2 事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	雄武町観光協会	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)				
【抱える課題やニーズは】	実働人員の不足	観光入込み数				
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	滞在型観光の促進	① 補助団体数	指標(指標計算式/解説)			目標年度 20年度
			目標値及び実績値			
			目標値	1 団体		
			実績値	1 団体		
			達成度	100.0 %		
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果＝目的	観光客の増加により、地元経済が活発化する。	②	目標年度			
			目標値			
			実績値			
			達成度			%
内 容(どのような手段で何を行ったか)						
補助金の支出	観光協会に対する補助金の交付					

3 事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	☐ 義務的なもの	既存の事業展開に含め、今後は他地域に出向いての特産物の積極的な販売PRの実施、観光ガイド等地域リーダーの育成も必要であり、継続実施することが必要と考える。
	☐ 全部 ☐ 一部	
必要／概ね必要／課題あり		

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	ホームページの開設により雄武町の情報を手軽に入手できる環境を整備、雄武の宝うまいもんまつりの開催や毛がにプレゼントやフォトコンテストの実施により雄武町のPRができたものと判断する。
	☒ 達成 ☐ ほぼ達成 ☐ 下回る	
有効／概ね有効／課題あり		

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	事業内容の見直し等を適宜行っており、運営は効率的と判断する。
	☒ 事業費抑制 ☐ 人員削減 ☐ 時間短縮・作業軽減 ☐ その他	
効率的／概ね効率的／課題あり		

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由	特定の任意団体に対する補助だが、町が積極的に行うべき役割も担っていることから、公平性は確保されていると判断をする。
	☐ 受益者負担がある ☐ 受益者負担がない ☐ 受益が一部に偏る ☒ その他	
公平／概ね公平／公平でない		

4 総合評価【A～D】

- A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
 B:ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
 C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
 D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
町とは異なる立場から観光PRに取り組んでいる団体であり、町が積極的に行うべき役割も担っていることから、継続的な支援が必要である。		

今後の展開方向
(Action)

継続／現状維持		
既存事業に加え、雄武の食のPR事業の展開、特産品の販売PR強化、観光ガイド等地域リーダーの育成等のため、継続支援が必要と判断する。		

*展開方向の区分

○ 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○ 終了 ○ 休止 ○ 廃止

5 その他特記事項 (アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

--

平成 21 年度 事務事業事後評価調書（平成 20 年度事業）

整理番号 8 - 60

1 事務事業の表示

※ ■ : 該当

事務事業名	観光施設維持管理事業										
評価者	担当課名		産業振興課		担当係名		商工観光係				
	管理職	職名	課長		作成者	職名	係長				
		氏名	石井弘道			氏名	石山英伸				
事業の概要	日の出岬キャンプ場は、雄大なオホーツク海が眺望できることから多くの観光客が訪れる施設であり、当町の重要な観光スポットとなっている。そのため、利用者に快適な利用環境を提供するため、施設の良好な維持管理を行うものである。						全体計画 / 単年度繰返 (平成 20 年度～ 24 年度) 事業費 国・道支出金 千円 地方債 千円 その他 千円 一般財源 27,600 千円 事業費計 27,600 千円				
実施方法	直営		■ 民間委託		その他 ()						
第 5 期 総合計画 (前期)			■ 登載事業		非登載事業		優先度		B		
事業の位置付け	政策目標		1 はつらつ・雄武～地域産業の振興～								
	基本施策		5 観光の振興								
	単位施策		2 雄武観光の魅力化								
	事務事業の種類		■ 自治事務		法定受託事務						
	その他計画・根拠等										
事業費	実施年度	20年度(実績)	21年度(見込)	22年度(計画)	23年度(計画)	24年度(計画)					
	国・道支出金	千円	千円	千円	千円	千円					
	地方債	千円	千円	千円	千円	千円					
	その他財源	千円	千円	千円	千円	千円					
	雄武町負担額 (一般財源)	8,358 千円	4,740 千円	4,740 千円	4,740 千円	4,740 千円					
	合計	8358 千円	4740 千円	4740 千円	4740 千円	4740 千円					

2 事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	観光客等のキャンプ場利用者	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	
【抱える課題やニーズは】	老朽化による修繕箇所の増加	キャンプ場利用者数	
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	計画的な改築・修繕によるサービス機能の向上、定期的な清掃による美観の維持	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値
		① 維持管理施設数	目標年度 20年度
			目標値 7 施設
			実績値 7 施設
			達成度 100.0 %
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果＝目的	観光客(特にリピーター)の増加	②	目標年度
			目標値
			実績値
			達成度 %
内 容(どのような手段で何を行ったか)			
維持管理・清掃業務の委託	日の出岬キャンプ場及び周辺施設の維持管理・清掃業務委託		

3 事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要 必要／概ね必要／課題あり	☐ 義務的なもの	夏期においてはキャンプ客等による利用、冬期間においては流氷観光客の利用がなされ、通年通しての維持管理が必要である。
	☐ 全部 ☐ 一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効 有効／概ね有効／課題あり	設定した目標値の達成状況	天候等の外的要因に左右されやすい施設であることから、利用者数は昨年を若干下回ったが、依然として多くの人が訪れており、当町の観光拠点として役割は果たしている。
	☒ 達成 ☐ ほぼ達成 ☐ 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的 効率的／概ね効率的／課題あり	判断の理由	本施設の維持管理業務に精通している業者へ発注することにより、あらゆる面での維持管理コストを抑制でき効率的である。
	☒ 事業費抑制 ☐ 人員削減 ☐ 時間短縮・作業軽減 ☐ その他	

(4)事務事業の公平性

公平 公平／概ね公平／公平でない	判断の理由	施設管理業務に精通した事業者による指名競争入札を経て発注を行っており、公平と判断する。
	☐ 受益者負担がある ☐ 受益者負担がない ☐ 受益が一部に偏る ☒ その他	

4 総合評価【A～D】

- A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
 B:ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
 C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
 D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
道の駅と並ぶ当町の代表的観光スポットとして多くの観光客が訪れる場所であることから、適切な施設維持のため、計画通りに事業を進める必要である。		

今後の展開方向
(Action)

継続／現状維持		
従来の維持管理業務に加え、施設の老朽化に伴う計画的な整備と、通年で利用できる環境を整えるための追加投資が必要と考える。		

*展開方向の区分

○ 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○ 終了 ○ 休止 ○ 廃止

5 その他特記事項 (アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

--

平成 21 年度 事務事業事後評価調書（平成 20 年度事業）

整理番号 8 - 61

1 事務事業の表示

※ ■ : 該当

事務事業名	オホーツクサイクリング事業							
評価者	担当課名		産業振興課		担当係名			
	管理職	職名	課長		作成者	職名		
		氏名	石井弘道			氏名	石山英伸	
事業の概要	オホーツク沿岸の市町村等で構成される実行委員会により開催され、当町から斜里町までの212kmを2日間で走破するイベントである。 当町では出発前日に行われる前夜祭においては、官民一体となった「おもてなしの心」でサイクリストを歓迎する事業を実施している。					全体計画 / 単年度繰返 (平成 20 年度～ 24 年度)		
						事業費	国・道支出金	千円
							地方債	千円
							その他	千円
							一般財源	14,500 千円
							事業費計	14,500 千円
実施方法	■ 直営	民間委託	その他 ()					
第 5 期 総合計画 (前期)		■ 登載事業	非登載事業	優先度	B			
事業の位置付け	政策目標	1 はつらつ・雄武～地域産業の振興～						
	基本施策	5 観光の振興						
	単位施策	2 雄武観光の魅力化						
	事務事業の種類	■ 自治事務	法定受託事務					
	その他計画・根拠等							
事業費	実施年度	20年度(実績)	21年度(見込)	22年度(計画)	23年度(計画)	24年度(計画)		
	国・道支出金	千円	千円	千円	千円	千円		
	地方債	千円	千円	千円	千円	千円		
	その他財源	2 千円	千円	千円	千円	千円		
	雄武町負担額 (一般財源)	2,748 千円	2,900 千円	2,900 千円	2,900 千円	2,900 千円		
	合計	2750 千円	2900 千円	2900 千円	2900 千円	2900 千円		

2 事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	サイクリスト	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	
【抱える課題やニーズは】	20年度で27回目を数え、新鮮味が薄れて、参加者数が減少している。参加費の軽減も検討事項である。	参加者数	
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	オホーツクライン、とりわけ出発地点である当町の観光PRの効果は大きいと考え、本事業の継続実施を図る。	① 実施回数	指標(指標計算式/解説)
			目標年度 20年度
			目標値 1 回
			実績値 1 回
			達成度 100.0 %
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果＝目的	開催当初レベルの参加者の確保、雄武町のPR	②	目標年度
			目標値
			実績値
			達成度 %
			内 容(どのような手段で何を行ったか)
実行委員会への負担金支出	オホーツクサイクリング実行委員会への負担金支出		
前夜祭実行委員会への補助	オホーツクサイクリング前夜祭実行委員会への補助金交付		

3 事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要 必要／概ね必要／課題あり	☐ 義務的なもの	町民の間でも参加者へのもてなしの意識が定着しており、町民の理解を得ているものと判断する。
	☐ 全部 ☐ 一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効 有効／概ね有効／課題あり	設定した目標値の達成状況	本事業の実施による広告媒体や、道内外からの参加者を通じた雄武町のPR効果は大きく、費用対効果の面からも有効と判断する。
	☒ 達成 ☐ ほぼ達成 ☐ 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的 効率的／概ね効率的／課題あり	判断の理由	近年参加者は減少傾向にあり、運営面において課題があるものの、発注品単価の抑制等を実施しており、効率的と判断する。ただし、参加料の軽減等を含め、今後の継続実施に向けた総括的な検証が必要である。
	☒ 事業費抑制 ☐ 人員削減 ☐ 時間短縮・作業軽減 ☐ その他	

(4)事務事業の公平性

概ね公平 公平／概ね公平／公平でない	判断の理由	当町からの参加者は毎年30人程度だが、町を挙げての一大イベントとして定着しており、町民の理解を得られているものと判断する。
	☒ 受益者負担がある ☐ 受益者負担がない ☐ 受益が一部に偏る ☐ その他	

4 総合評価【A～D】

- A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
 B:ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
 C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
 D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
参加者は減少傾向にあるものの、リピーターが多く根強い支持を得ている。町民にも定着しており、開催について理解を得られている。		

今後の展開方向
(Action)

継続／現状維持		
参加者が減少傾向にあるにも関わらず、これまで実施できた背景には参加者のニーズが高いことが挙げられる。今後の継続実施に向けた総括的な検証を行った上で、継続実施する必要がある。		

*展開方向の区分

○ 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○ 終了 ○ 休止 ○ 廃止

5 その他特記事項 (アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

--

平成 21 年度 事務事業事後評価調書（平成 20 年度事業）

整理番号 8 - 62

1 事務事業の表示

※ ■ : 該当

事務事業名	メモリアル広場等維持管理事業										
評価者	担当課名		産業振興課		担当係名		商工観光係				
	管理職	職名	課長		作成者	職名	係長				
		氏名	石井弘道			氏名	石山英伸				
事業の概要	産業観光まつりをはじめとするイベント会場や、町民の野外活動等で利用されているメモリアル広場及び中山間緑地広場の維持管理を一体的に実施するものであり、また、町民の健康増進のための散策路として親しまれている健康の森の維持管理を実施している。						全体計画 / 単年度繰返 (平成 20 年度～ 24 年度) 事業費 国・道支出金 千円 地方債 千円 その他 千円 一般財源 12,400 千円 事業費計 12,400 千円				
実施方法	直営		■ 民間委託		その他 ()						
第 5 期 総合計画 (前期)			■ 登載事業		非登載事業		優先度	B			
事業の位置付け	政策目標		1 はつらつ・雄武～地域産業の振興～								
	基本施策		5 観光の振興								
	単位施策		2 雄武観光の魅力化								
	事務事業の種類		■ 自治事務		法定受託事務						
	その他計画・根拠等										
事業費	実施年度	20年度(実績)	21年度(見込)	22年度(計画)	23年度(計画)	24年度(計画)					
	国・道支出金	千円	千円	千円	千円	千円					
	地方債	千円	千円	千円	千円	千円					
	その他財源	千円	千円	千円	千円	千円					
	雄武町負担額 (一般財源)	2,445 千円	2,480 千円	2,480 千円	2,480 千円	2,480 千円					
	合計	2445 千円	2480 千円	2480 千円	2480 千円	2480 千円					

2 事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町民等利用者	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)			
【抱える課題やニーズは】	定期的な清掃、危険物の除去等を実施し、良好な環境を維持する。	なし			
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	安心して利用でき、心身ともにリフレッシュできる施設となることにより、利用者が増加する。	①	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
			目標年度		
			目標値		
			実績値		
			達成度	%	
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果＝目的	町民の憩いの場として親しまれる施設	②	目標年度		
			目標値		
			実績値		
			達成度	%	
			内 容(どのような手段で何を行ったか)		
メモリアル広場、中山間緑地、健康の森の維持管理	草刈り・施設点検・清掃の一体的維持管理について業務委託を実施				

3 事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要 必要／概ね必要／課題あり	☐ 義務的なもの	町民の憩いの場であり、またイベント時に会場となる場所であることから、定期的な周辺環境整備が必要不可欠である。
	☐ 全部 ☐ 一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効 有効／概ね有効／課題あり	設定した目標値の達成状況	利用者数の増加等明確な効果が直ちに発現しないものの、良好な周辺環境整備の維持管理によって、利用者のニーズには応えているものと判断する。
	☐ 達成 ☐ ほぼ達成 ☐ 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的 効率的／概ね効率的／課題あり	判断の理由	施設管理業務に精通した事業者への一体的事業の発注により、整備機材・人工調整が可能となり、事業費・人員の抑制が図られる。
	☐ 事業費抑制 ☐ 人員削減 ☐ 時間短縮・作業軽減 ☐ その他	

(4)事務事業の公平性

公平 公平／概ね公平／公平でない	判断の理由	町を挙げてのイベントの実施会場や町民の憩いの場である施設の維持管理であり、公平と判断する。
	☐ 受益者負担がある ☐ 受益者負担がない ☐ 受益が一部に偏る ☐ その他	

4 総合評価【A～D】

- A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
 B:ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
 C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
 D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
町民の憩いの場であり、またイベント時に会場となる場所であることから、定期的な周辺環境整備が必要不可欠である。		

今後の展開方向 (Action)		
継続／現状維持		
今後も継続的な環境整備を行い、町民に快適な利用環境を提供する。		
*展開方向の区分 ☐ 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ☐ 終了 ☐ 休止 ☐ 廃止		

5 その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

--

平成 21 年度 事務事業事後評価調書（平成 20 年度事業）

整理番号 8 - 63

1 事務事業の表示

※ ■ : 該当

事務事業名	観光PR用印刷物作成事業						
評価者	担当課名		産業振興課	担当係名		商工観光係	
	管理職	職名	課長	作成者	職名	係長	
		氏名	石井弘道		氏名	石山英伸	
事業の概要	本町の観光拠点である日の出岬地区をはじめとし、各種イベントや特産品を紹介し、町の産業や観光について広くPRするものである。					全体計画 / 単年度繰返 (平成 20 年度～ 24 年度)	
						事業費	
						国・道支出金	千円
						地方債	千円
						その他	千円
一般財源	2,500 千円						
事業費計	2,500 千円						
実施方法	■ 直 営		民間委託	その他 ()			
第 5 期 総 合 計 画 (前期)		■ 登載事業		非登載事業	優先度	B	
事業の位置付け	政策目標	1 はつらつ・雄武～地域産業の振興～					
	基本施策	5 観光の振興					
	単位施策	1 雄武観光の売り込み					
	事務事業の種類	■ 自治事務		法定受託事務			
	その他計画・根拠等						
事業費	実施年度	20年度(実績)	21年度(見込)	22年度(計画)	23年度(計画)	24年度(計画)	
	国・道支出金	千円	千円	千円	千円	千円	
	地方債	千円	千円	千円	千円	千円	
	その他財源	千円	千円	千円	千円	千円	
	雄武町負担額 (一般財源)	441 千円	500 千円	500 千円	500 千円	500 千円	
	合 計	441 千円	500 千円	500 千円	500 千円	500 千円	

2 事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町外からの観光客	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)			
【抱える課題やニーズは】	観光入込み数が横ばい若しくは減少傾向にある。	発行部数			
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	雄武町の観光資源の魅力を十分にPRし、通過型観光から滞在型・定住型観光への転換を図る。	① 発行部数	指標(指標計算式/解説)		
			目標値及び実績値		
			目標年度	20年度	
			目標値	8000	
			実績値	8000	
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果＝目的	観光客の来訪により町内経済の活性化が見込める。	②	目標年度		
			目標値		
			実績値		
			達成度		
			100.0 %		
内 容(どのような手段で何を行ったか)					
観光ガイドブックの作製	オールカラー(20ページ)のガイドブック8,000部の増刷				

3 事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要 必要／概ね必要／課題あり	☐ 義務的なもの	雄武町に関する旅行情報の収集手段としてパンフレット提供依頼が数多く寄せられており、観光PR用のツールとして必要である。
	☐ 全部 ☐ 一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効 有効／概ね有効／課題あり	設定した目標値の達成状況	雄武町に関する旅行情報の収集手段としてパンフレット提供依頼が数多く寄せられており、媒体としての効果を発揮しているものと判断する。
	☒ 達成 ☐ ほぼ達成 ☐ 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的 効率的／概ね効率的／課題あり	判断の理由	原油価格の高騰により材料の単価増とはなっているものの、作製数の年度間調整により効率的に作製している。
	☒ 事業費抑制 ☐ 人員削減 ☐ 時間短縮・作業軽減 ☐ その他	

(4)事務事業の公平性

公平 公平／概ね公平／公平でない	判断の理由	無料の配布物だが、広く行う観光PR用のツールであり、公正性は確保されていると判断する。
	☐ 受益者負担がある ☐ 受益者負担がない ☐ 受益が一部に偏る ☒ その他	

4 総合評価【A～D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等

B:ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要 等

C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等

D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
B	B	
雄武町に関する旅行情報の収集手段としてパンフレット提供依頼が数多く寄せられており、媒体としての効果を発揮していることから、継続実施が必要と判断する。		

今後の展開方向 (Action)		
継続／現状維持	継続／現状維持	
従来のパンフレット作成に加え、名刺用台紙の作成が求められている。		
*展開方向の区分 ☐ 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ☐ 終了 ☐ 休止 ☐ 廃止		

5 その他特記事項 (アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

--

平成 21 年度 事務事業事後評価調書（平成 20 年度事業）

整理番号 8 - 64

1 事務事業の表示

※ ■ : 該当

事務事業名	サンライズ王国運営助成事業						
評価者	担当課名		産業振興課		担当係名		
	管理職	職名	課長		作成者	職名	
		氏名	石井弘道			氏名	石山英伸
事業の概要	町おこしグループである同団体への運営費助成を実施している。王国の主な活動として、町内のごみ拾い、イルミネーション等の四季に合わせた景観装飾、産業観光まつりを始めとする町イベントへの協力が挙げられる。				全体計画 / 単年度繰返		
					(平成 20 年度～ 24 年度)		
					事業費	国・道支出金	千円
					地方債	千円	
					その他	千円	
一般財源	1,500 千円						
事業費計	1,500 千円						
実施方法	■ 直 営		民間委託		その他 ()		
第 5 期 総 合 計 画 (前期)		■ 登載事業		非登載事業		優先度 B	
事業の位置付け	政策目標	1 はつらつ・雄武～地域産業の振興～					
	基本施策	5 観光の振興					
	単 位 施 策	2 雄武観光の魅力化					
	事務事業の種類	■ 自治事務		法定受託事務			
	その他計画・根拠等						
事業費	実施年度	20年度(実績)	21年度(見込)	22年度(計画)	23年度(計画)	24年度(計画)	
	国・道支出金	千円	千円	千円	千円	千円	
	地 方 債	千円	千円	千円	千円	千円	
	その他財源	千円	千円	千円	千円	千円	
	雄武町負担額 (一般財源)	300 千円	300 千円	300 千円	300 千円	300 千円	
	合 計	300 千円	300 千円	300 千円	300 千円	300 千円	

2 事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	サンライズ王国	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)			
【抱える課題やニーズは】	会員の減少に伴う独自事業の縮小	会員数及び実施事業数			
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	会員数増加、主催事業の開催	① 補助団体数	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
			目標年度	20年度	
			目 標 値	1 団体	
			実 績 値	1 団体	
			達 成 度	100.0 %	
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果＝目的	青年・異業種間交流による町おこし原動力の創出	②	目標年度		
			目 標 値		
			実 績 値		
			達 成 度	%	
			内 容(どのような手段で何を行ったか)		
補助金の支出	サンライズ王国実行委員会への補助金の交付				

3 事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要 必要／概ね必要／課題あり	☐ 義務的なもの	会員数及び事業数の減少により補助金額も減額している中、町や他団体が行う事業に積極的に参加協力しており、今後、町おこしのための新規事業展開が期待されることから、継続支援は必要と判断される。
	☐ 全部 ☐ 一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効 有効／概ね有効／課題あり	設定した目標値の達成状況	会員数の減少により主催事業は実施していないが、町や他団体が行う事業に積極的に参加協力していることから、支援は有効であると判断できる。
	☒ 達成 ☐ ほぼ達成 ☐ 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的 効率的／概ね効率的／課題あり	判断の理由	会員数及び事業数の減少により補助金額が減額しているにも関わらず、町や他団体が行う事業に積極的に参加協力していることから効率的と判断される。
	☒ 事業費抑制 ☐ 人員削減 ☐ 時間短縮・作業軽減 ☐ その他	

(4)事務事業の公平性

公平 公平／概ね公平／公平でない	判断の理由	特定団体への補助であるが、町や他団体が行う事業に積極的に参加協力していることから、公平性は確保されていると判断できる。
	☐ 受益者負担がある ☐ 受益者負担がない ☐ 受益が一部に偏る ☒ その他	

4 総合評価【A～D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等

B:ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要 等

C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等

D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
B	B	
会員数及び事業数の減少により補助金額も減額しているにも関わらず、町や他団体が行う事業に積極的に参加協力しており、町おこしの一翼を担っている。		



継続／現状維持	継続／現状維持	
町おこしの一翼を担う団体であることから継続支援は必要だが、主催事業の開催等、より主体的な取り組みが求められている。		

*展開方向の区分

○ 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○ 終了 ○ 休止 ○ 廃止

5 その他特記事項 (アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

--

平成 21 年度 事務事業事後評価調書（平成 20 年度事業）

整理番号 8 - 65

1 事務事業の表示

※ ■ : 該当

事務事業名	道の駅振興調査事業						
評価者	担当課名		産業振興課		担当係名		
	管理職	職名	課長		作成者	職名	
		氏名	石井弘道			氏名	石山英伸
事業の概要	当町道の駅は多くの観光客が訪れる施設だが、当初から道の駅として使用することを想定して整備された施設ではないことから、ロビーや駐車場が狭隘な点など様々な課題を抱えている。そこで、機能充実のための調査・研究を行い、最終的には改造計画の策定を目指す。					全体計画 / 単年度繰返 (平成 20 年度～ 22 年度)	
						事業費	
						国・道支出金	千円
						地方債	千円
						その他	千円
一般財源	700 千円						
事業費計	700 千円						
実施方法	■ 直 営		民間委託		その他 ()		
第 5 期 総 合 計 画 (前期)			■ 登載事業		非登載事業		
事業の位置付け	政策目標	1 はつらつ・雄武～地域産業の振興～					
	基本施策	5 観光の振興					
	単位施策	1 雄武観光の売り込み					
	事務事業の種類	■ 自治事務		法定受託事務			
	その他計画・根拠等						
事業費	実施年度	20年度(実績)	21年度(見込)	22年度(計画)	23年度(計画)	24年度(計画)	
	国・道支出金	千円	千円	千円	千円	千円	
	地方債	千円	千円	千円	千円	千円	
	その他財源	千円	千円	千円	千円	千円	
	雄武町負担額 (一般財源)	0 千円	100 千円	500 千円	千円	千円	
	合 計	千円	100 千円	500 千円	千円	千円	

2 事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	観光客等道の駅利用者	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)				
【抱える課題やニーズは】	狭隘なロビーと駐車場、魅力ある機能(売店・レストラン・体験施設等)の不足	道の駅改造計画の策定				
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	雄武町の観光・地域情報の総合発信基地	① なし	指標(指標計算式/解説)			目標年度
						目 標 値
						実 績 値
						達 成 度
						%
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果＝目的	雄武町の顔として多くの観光客に利用される施設	②				目標年度
						目 標 値
						実 績 値
						達 成 度
						%
内 容(どのような手段で何を行ったか)						
実績なし						

3 事務事業の評価(Check)

(1) 事務事業の必要性(町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要／概ね必要／課題あり	☐ 義務的なもの	
	☐ 全部 ☐ 一部	

(2) 事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効／概ね有効／課題あり	設定した目標値の達成状況	
	☐ 達成	
	☐ ほぼ達成 ☐ 下回る	

(3) 事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的／概ね効率的／課題あり	判断の理由	
	☐ 事業費抑制	
	☐ 人員削減	
	☐ 時間短縮・作業軽減 ☐ その他	

(4) 事務事業の公平性

公平／概ね公平／公平でない	判断の理由	
	☐ 受益者負担がある	
	☐ 受益者負担がない	
	☐ 受益が一部に偏る ☐ その他	

4 総合評価【A～D】

A: 計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等

B: ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要 等

C: 当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等

D: 事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
C	C	

今後の展開方向

(Action)

継続／内容の見直し・変更	継続／内容の見直し・変更	
中心市街地活性化事業と連携して取り組む。		

* 展開方向の区分

○ 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○ 終了 ○ 休止 ○ 廃止

5 その他特記事項 (アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

--

平成 21 年度 事務事業事後評価調書（平成 20 年度事業）

整理番号 8 - 66

1 事務事業の表示

※ ■ : 該当

事務事業名	中心商店街活性化事業					
評価者	担当課名		産業振興課		担当係名	
	管理職	職名	課長		作成者	職名
		氏名	石井弘道			氏名
事業の概要	中心商店街活性化に関する基本計画・実施計画策定に係る調査・研究事業などを行う。				全体計画 / 単年度繰返	
					(平成 20 年度～ 21 年度)	
					国・道支出金	千円
					地方債	千円
					その他	千円
					一般財源	0 千円
				事業費計	千円	
実施方法	■ 直 営		民間委託		その他 ()	
第 5 期 総 合 計 画 (前期)			■ 登載事業		非登載事業	優先度 C
事業の位置付け	政策目標	1 はつらつ・雄武～地域産業の振興～				
	基本施策	4 商工業の振興				
	単位施策	3 住民を支える商店街づくりへの支援				
	事務事業の種類	■ 自治事務		法定受託事務		
	その他計画・根拠等					
事業費	実施年度	20年度(実績)	21年度(見込)	22年度(計画)	23年度(計画)	24年度(計画)
	国・道支出金	千円	千円	千円	千円	千円
	地方債	千円	千円	千円	千円	千円
	その他財源	千円	千円	千円	千円	千円
	雄武町負担額 (一般財源)	0 千円	0 千円	0 千円	0 千円	0 千円
	合 計	千円	千円	千円	千円	千円

2 事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町内の商工業者	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)			
【抱える課題やニーズは】	後継者の不在、顧客の流出、売上高の減少等による商店街の衰退	なし			
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	関係者による委員会を設立し、課題の発見と解決に向けた調査・研究を行う。	①	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
			目標年度		
			目標値		
			実績値		
			達成度	%	
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果＝目的	関係者の意識改革と連携を醸成し、商店街活性化に関する大まかな構想の策定を行う。	②	目標年度		
			目標値		
			実績値		
			達成度	%	
			内 容(どのような手段で何を行ったか)		
委員会設立に向けた準備	関係団体との検討・調整				

3 事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要 必要／概ね必要／課題あり	☐ 義務的なもの	中心商店街の賑わいは町づくりにおいて欠かせないものであり、行政の支援は必要である。
	☐ 全部 ☐ 一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

課題あり 有効／概ね有効／課題あり	設定した目標値の達成状況	本町の商業のありかた、ひいては将来の町づくりにまで及ぶ内容となるため、委員会の位置づけ・協議範囲・人選等に苦慮している。
	☐ 達成 ☐ ほぼ達成 ☒ 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的 効率的／概ね効率的／課題あり	判断の理由	委員会設立に向けた調整段階であり、コストは発生していない。
	☐ 事業費抑制 ☐ 人員削減 ☐ 時間短縮・作業軽減 ☒ その他	

(4)事務事業の公平性

公平 公平／概ね公平／公平でない	判断の理由	商店街活性化は商工業者の繁栄のみならず、町全体の活性化に寄与するものであり、公平と判断する。
	☐ 受益者負担がある ☒ 受益者負担がない ☐ 受益が一部に偏る ☐ その他	

4 総合評価【A～D】

- A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
 B:ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
 C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
 D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
C	C	
関係者に事業に対する理解を求め、協力を得る必要がある。		

今後の展開方向
(Action)

継続／内容の見直し・変更	継続／内容の見直し・変更	
商工業者に限らず、広く町民を巻き込み、町全体の将来像について検討する性格の組織とする必要があると思われる。		

*展開方向の区分

○ 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○ 終了 ○ 休止 ○ 廃止

5 その他特記事項 (アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

--

平成 21 年度 事務事業事後評価調書（平成 20 年度事業）

整理番号 8 - 67

1 事務事業の表示

※ ■ : 該当

事務事業名	雄武ブランド向上・チャレンジサポート事業						
評価者	担当課名		産業振興課		担当係名		
	管理職	職名	課長		作成者	職名	
		氏名	石井弘道			氏名	石山英伸
事業の概要	当町特産品のブランド力を向上させるため、幅広い分野における住民や団体等取り組みに対して、横断的な対応のもとで必要なアドバイス等を実施する。					全体計画 / 単年度繰返 (平成 20 年度～ 24 年度)	
						事業費	
						国・道支出金	千円
						地方債	千円
						その他	千円
一般財源	0 千円						
事業費計	千円						
実施方法	■ 直 営		民間委託		その他 ()		
第 5 期 総 合 計 画 (前期)		■ 登載事業		非登載事業		優先度 A	
事業の位置付け	政策目標	1 はつらつ・雄武～地域産業の振興～					
	基本施策	5 観光の振興					
	単位施策	2 雄武観光の魅力化					
	事務事業の種類	■ 自治事務		法定受託事務			
	その他計画・根拠等						
事業費	実施年度	20年度(実績)	21年度(見込)	22年度(計画)	23年度(計画)	24年度(計画)	
	国・道支出金	千円	千円	千円	千円	千円	
	地方債	千円	千円	千円	千円	千円	
	その他財源	千円	千円	千円	千円	千円	
	雄武町負担額 (一般財源)	0 千円	0 千円	0 千円	0 千円	0 千円	
	合 計	千円	千円	千円	千円	千円	

2 事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町内産業団体、商工業者		望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	
【抱える課題やニーズは】	雄武ブランドの確立に向けた、産業団体・事業者間の連携の不足		なし	
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	町全体による一体的な雄武ブランド向上に向けた取り組みを行う。	①	指標(指標計算式/解説)	目標年度
				目標値
				実績値
				達成度 %
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果＝目的	ブランド力向上による地域力向上と町経済の活性化	②	指標(指標計算式/解説)	目標年度
				目標値
				実績値
				達成度 %
内 容(どのような手段で何を行ったか)				
町内産業団体、商工業者への支援	町内産業団体や事業者が都市部において特産品PR等を行う際の支援			

3 事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要 必要／概ね必要／課題あり	☐ 義務的なもの	地域力向上と町経済活性化のために必要であると判断する。
	☐ 全部 ☐ 一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

課題あり 有効／概ね有効／課題あり	設定した目標値の達成状況	実施主体である産業団体・事業者から理解が得られておらず、実績に乏しい。
	☐ 達成 ☐ ほぼ達成 ☒ 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的 効率的／概ね効率的／課題あり	判断の理由	コストは発生していない
	☐ 事業費抑制 ☐ 人員削減 ☐ 時間短縮・作業軽減 ☒ その他	

(4)事務事業の公平性

公平 公平／概ね公平／公平でない	判断の理由	町全体に寄与するものであることから、公平である。
	☐ 受益者負担がある ☒ 受益者負担がない ☐ 受益が一部に偏る ☐ その他	

4 総合評価【A～D】

- A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
 B:ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
 C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
 D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
C	C	
関係者からの事業に対するニーズが無い。		

今後の展開方向 (Action)		
休止	休止	
事業に対するニーズについて機運が高まるまで休止とする。		

*展開方向の区分

○ 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 ○ 終了 ○ 休止 ○ 廃止

5 その他特記事項 (アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

--